

「郷土の歴史講座 源平屋島合戦」を開催しました



平成25年11月20日の午後、牟礼源平ボランティアガイドの十河伯行さんを講師に迎え、「～源平の勇者 かく戦えり～「源平屋島合戦の表と裏」」を副題として郷土の歴史講座を開催しました。

まず義経の進攻路や源平屋島合戦の概要が説明された後、平家物語の源平屋島の戦いに出てくる「佐藤継信と菊王丸」「那須の与一と扇の的」「景清 しころ引き伝説」および「義経弓流し伝説」の4つの話を題材に、源平合戦図屏風（洲崎寺蔵）など現存する資料から見た源平の勇者の戦い方について講師の考察が述べられたほか、地元に残る「駒立岩・祈り岩」「総門跡」「佐藤継信の墓」「弁慶の力自慢挿話」「太夫黒の墓」などの史跡や伝承の紹介、さらにはその成り立ちや背景などについて興味深いお話がありました。

「祇園精舎の鐘の声 諸行無常の響きあり 沙羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらはす…」で始まる平家物語が、琵琶法師の哀吟とともに今に語り継がれてきた一方で、屋島檀ノ浦周辺には、源平合戦に関連する数多くの史跡や伝承が残り、歴史がしっかりと息づいていることがわかりました。

受講者の皆さんは、はるかなる昔の歴史ロマンに思いを馳せながら、講師のお話に聞き入っているようでした。



屋島檀ノ浦周辺に残る史跡をのんびりと歩いて巡れば、800年前の平家の無念や源氏の武将の足音を感じることができるのではないのでしょうか。